

当園ではこの度、平成25年度の学校評価として、教職員による自己評価を実施いたしました。教職員一人ひとりが、自らの教育活動や園運営の状況を振り返ることで、自身や園全体を見つめ直すいい機会となりました。

また、それぞれの評価結果について、皆で話し合うことにより、成果や今後の課題、改善の方向性などを明らかにすることができました。この自己評価の結果を深く受けとめ、更なる教育活動の充実、教育環境の整備、教職員の資質向上に努めてまいります。

I. 教育目標

子どもたちが自立するために、心の力・学ぶ力・体の力を育てます。

II. 自己評価の重点目標

- 教育方針・目標の理解
- 教育課程の編成
- 保育の評価・反省
- 職員研修の充実
- 異年齢交流の充実
- 教職員間の協力・連携の強化
- 安全管理体制の充実
- 保護者との協力・連携の充実
- 食育の充実

III. 評価項目の取組み状況

重点課題・自己評価項目		取組み内容
1	教育方針・目標の理解 園の方針や目標、園長の想い、園の目指す具体的な幼児の姿について、教職員間で共通理解を深めている。	A <ul style="list-style-type: none"> ・朝礼にて、教職員間で毎日かかさず経営理念等を唱和することで、共通理解を深めることができた。 ・職員会議を月1回開催することで、保育や行事等の計画・振り返りの話し合いを行い、共通認識を深めることができた。今後は、早い時間から会議ができるよう日程の計画を立てて実施できるよう検討する。 ・日々の終礼を通して必要事項の情報共有に取り組むことができた。今後は、バスや延長の当番で参加できない職員に対する申し送りを徹底し、情報共有に取り組むことが課題である。
2	教育課程の編成 園の教育課程・指導計画は、社会状況や幼児の実態、地域性を考慮しながら、必要に応じて見直しが行われると共に、教職員間で共通理解を深めている。	B <ul style="list-style-type: none"> ・YYサポートでは、学年毎の実態の把握、振り返り・評価活動を充実させることができた。教職員間の話し合いを通して、各学年の現状や課題を明確にし、次の計画に反映させている。 ・各学年の月案をもとに、クラスの状況などを共通理解するためのファイルを製作し、誰もが閲覧・共有できる体制を整えることができた。 ・今後は、終礼を通して学年毎の取組み状況等の周知を徹底し、その上で気になる点などを都度話し合っているようにする。また、教育課程などの全体計画についての見直しは、理事長・園長などと一緒に具体的な目標を設定した上で取り組む。

重点課題・自己評価項目		取り組み内容		
3	職員研修の充実	教職員が互いに保育を見せ合い、検討し、評価・反省を加え、幼児の生活と自らの保育の向上につなげている。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、園内研修の一環としてビデオ研修を実施することができた。ヨコミネ式学育（体操）やおはじまりの指導風景をビデオで撮影し、全教職員で確認し意見交換を行うことができた。時間配分や援助の適切さなどをチェックする用紙を活用し、その中で気付いたこと、課題などを園長先生を中心に教職員間で話し合うことができた。 ・今後は、ビデオ研修のテーマを明確にし、年間計画を立てて計画的に実施できるようにする。また、チェック表の項目については各学年に適したものに直し、振り返り・評価活動を充実させる。 ・園内研修の一環として、気になる子どもや、保護者対応などのエピソードを出し合い、自分だったらどのような対応をとるかなど教職員間で意見交換を行う機会を設定する。また、園外研修（私幼連など）に参加した後は、研修結果報告書を取りまとめ教職員間で共有できる体制を整える。
		職員研修のテーマや課題を定め、計画的に園内研修が実施されている。	A	
5	異年齢児の交流	異年齢の幼児が自然に交流したり、遊んだりできるような環境構成に取り組んでいる。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・朝や延長保育の時間の中で、異年齢を交えての遊びや活動を行っている。また、年長・年中の子ども達が一緒になってリレーや、かけっこなどを行うことで異年齢の交流を深めることができた。 ・今後は、異年齢と一緒に給食を食べたり、体操やゲームをするなど、異年齢交流を年間イベントとして計画的に取り組めるよう検討する。
6	教職員間の協力・連携の強化	幼稚園と保育園間の情報共有、また、教職員間の保育等の引き継ぎ時の情報伝達について、その仕組みが適切に運用されている。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・行事内容や連絡事項などは、リーダー会議や日誌等を活用して教職員間で情報共有する体制を整えている。保育園で起きた怪我などの報告については、直ちに園長先生に報告するとともに、終礼等を通して幼稚園の先生にも報告・共有するようにしている。 ・今後は、メールでの欠席情報をパソコンで確認できるよう検討する（3月予定）。また、保育園から幼稚園に進級する前の子ども達の様子を報告し、教職員間で情報共有する機会を充実させる。 ・幼稚園・保育園で起きた怪我、未然に防げた怪我などの情報を共有する（怪我につながりそうな事を書き込めるノートなどを作る） ・一日の終礼後、連絡事項があれば担当の先生が報告する（感染症、予定変更など）
7	安全管理体制の充実	緊急時（事故やケガ、感染症の発生、嘔吐など）の対応手順について、全教職員が共通理解をもち対応できる。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症（インフルエンザ、嘔吐など）の対応手順をマニュアル化し、教職員間で共通理解を深めることができた。また、嘔吐の対応手順については、トイレ等みんなが目につく場所にマニュアルを貼り、発生した時に素早く適切に対応できる環境を整えた。 ・今後も、緊急時（事故や怪我、感染症など）の対応マニュアルの見直し・整備に取り組むとともに、教職員間で周知徹底に取り組む。
		災害発生時（火災・地震など）や、不審者侵入時の対応手順について、定期的に訓練を行うなどし、共通理解に取り組んでいる。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・火災や地震など、様々な場面を想定した避難訓練を実施することができた。避難訓練の実施にあたっては、指導案を作成し、教職員間でねらいや手順等を確認したうえで行うことができた。 ・今後は、災害マニュアルの見直し・整備に取り組み、対応手順の共通理解に取り組む。また、必要に応じて専門機関と連携しながら避難訓練を実施し、災害時対応手順の理解を深める。
8			A	

重点課題・自己評価項目		取り組み内容	
9	保護者との協力・連携の充実	<p>保育参観や保護者面談などを実施し、子どもの様子や、園での保育活動、家庭でのあり方等について、共通理解をもてるよう取り組んでいる。</p>	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育参観はテーマにそって実施することができた。子どもの様子や園での保育活動を見て頂くことで共通理解を深めることができた。 ・今年度は、保護者面談を実施するとともに、事前にアンケートを行い、保護者の方のご意見を集計することが出来た。 ・定期的にクラス便りを発行し、子どもたちのタイムリーな様子をお知らせすることが出来た。 ・今後も、保育者として、保護者に対する接し方を振り返り、見直すことで安心してまかせられる先生の育成を図る。また、バス通園など、直接お会いする機会が少ない保護者には、お便り帳などを上手く活用し、コミュニケーションの充実を図る。
10	食育の充実	<p>子どもの食生活を充実させるために、家庭と適切に連携しながら、食育に取り組んでいる。</p>	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食育について、ご家庭との連携を充実させるために、食育だよりを年4回発行することができた。 ・アレルギーについては、教職員間で『アレルギーについて』、『アナフィラキシー症状の対応』の研修を実施し、共通理解を深めることができた。また、アレルギーの届けがあった子どもに対しては、病院の先生とも連絡がとれる様に、問診票や病院の先生に記入していただく用紙を配布し、わかりやすくまとめることができた。 ・今後も、食育だよりを年4回の発行するとともに、アナフィラキシー症状やアレルギーについての知識、対応の研修を充実させる。 ・現在行っている食に関わる行事（おもちつきなど）を継続するとともに、さらに原材料などに触れる機会を充実させ、子どもたちと楽しみながら学び合える環境を整える。

【評価の基準】

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取組まれているが、成果が十分でない
D	取り組みが不十分である

IV. 今後の取り組むべき課題

1	指導計画の評価・見直し活動の充実	指導計画（ヨコミネ式学育、態度教育）について、学期ごとの評価・見直し活動を充実させ、保育の質の向上を図る。幼児の実態を把握したうえで、教職員間の振り返り・評価を徹底し、現状や課題を明確にして次の計画に反映させる。
2	職員研修の充実	25年度に引き続き、ビデオ研修を定期的実施し教職員一人ひとりの資質向上を図る。ビデオ研修のテーマを設定し、年間実施計画を立てたうえで計画的に取り組む。また、チェック表の項目を見直すことで、研修の振り返り・評価活動の充実を図る。
3		職員研修の一環として、気になる子どもや、保護者対応などのエピソードを出し合い、自分だったらどのような対応をとるかなど教職員間で意見交換を行う機会を設ける。また、園外研修（私幼連など）に参加した後は、研修結果報告書を取りまとめて教職員間で共有できるよう取り組む。
4	異年齢交流の充実	異年齢の交流を年間イベントとして計画的に取り組めるようにする。異年齢の子ども達が一緒に給食を食べたり、体操やゲームをしたりする機会を設けることで異年齢の子ども達の交流をさらに深める。
5	幼稚園・保育園間の情報共有	<ul style="list-style-type: none"> ・メールでの欠席情報をパソコンで確認・共有できる体制を整える。 ・保育園から幼稚園に進級する子ども達の様子を報告し、教職員間で情報共有する機会を充実させる。 ・幼稚園、保育園で起きた怪我や、未然に防げた怪我の情報（ヒヤリハット体験）を共有し、事故の防止に努める（怪我につながりそうな事を書き込めるノートなどを作る） ・一日の終礼後、連絡事項があれば担当の先生が報告する体制を整える（感染症、予定変更など）
6	安全管理体制の充実	災害発生時の対応手順について共通理解を深める。火災や地震等の対応マニュアルの見直し・整備に取り組み教職員間で周知徹底する。また、必要に応じて専門機関と連携した避難訓練を実施し、災害時対応手順の理解を深める。
7		事故や怪我、感染症などの対応マニュアルの見直し・充実に取り組むとともに、教職員間の周知徹底に取り組む。
8	食育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・25年度に引き続き、食育だよりを年4回の発行しご家庭への情報提供を充実させる。また、アナフィラキシー症状やアレルギーについての知識、対応の研修を充実させ教職員間の共通理解を深める。 ・食に関する行事（おもちゃつきなど）について、原材料などに触れる機会を充実させるなど、子どもたちと楽しみながら学び合える環境構成を検討する。

以上